

令和7年度 学校推薦型選抜・社会人選抜 解答例

第1問

問1

障害者支援が人の善意から法令遵守への位置づけに転換したこと (29字)

障害者支援が善意から法令遵守へ変わり、国が義務を負うようになった転換のこと (37字)

障害者支援が善意から法令遵守へ変わり、国が義務を負うようになった転換である (37字)

人の善意による支援から法令遵守へという位置付けに転換したこと (30字)

人の善意によって行われるという位置付けから法令遵守という位置付けに転換したこと (39字)

問2

生活を送るうえでの物理的・制度的・心理的なバリア (24字)

問3

視覚障害者が障害者とは言えない社会は、視覚障害という機能障害があっても社会的障壁がない状態であり、次のような状況と考えられる。公共施設や交通機関には点字案内や音声ガイドや触覚地図が設置され、視覚障害者が自立して移動でき、デジタル情報も音声読み上げ機能や高コントラスト表示が標準装備され、ウェブサイトやアプリが利用しやすくなっている。教育機関や職場では、点字教材や音声ソフトウェアなどの設備が整い、個別の支援が充実している。これにより、視覚障害者が自分の能力を最大限に発揮でき、学業や職業の選択肢が広がっている。さらに、社会全体で偏見や差別がなく、視覚障害者が平等に扱われる意識が根づいている必要がある。地域コミュニティや職場で自然に受け入れられ、社会参加が容易になっている。このように環境が整うことで、視覚障害者は視覚障害による制約を感じることなく、自分の可能性を広げ、豊かな生活を送ることができる。(400字)

視覚障害者が障害者とは言えない社会は、視覚障害という機能障害があっても社会的障壁がない状態である。公共施設や交通機関に点字案内、音声ガイド、触覚地図が整備されており、視覚障害者が自立して移動できる環境が整っている。デジタル情報には音声読み上げ機能や高コントラスト表示が標準装備され、ウェブサイトやアプリの利用が容易である。教育機関や職場では点字教材や音

声ソフトウェアが充実し、個別支援も提供されている。これにより視覚障害者は学業や職業の選択肢が広がり、自分の能力を最大限に発揮できる。さらに、社会全体で偏見や差別がなく、視覚障害者が平等に扱われる意識が根づいている必要がある。地域コミュニティや職場での自然な受け入れと社会参加の容易さが実現しているため、視覚障害者は障害による制約を感じずに豊かな生活を送ることが可能である。(362 字)

第 2 問

問 1

人類は地球の資源を贅沢に消費する社会を発展としてきたが、原材料の数には限りがあり、資源の保護とのバランスを考える必要がある。(62 字)

人類は地球の資源を贅沢に消費し社会を発展させてきたが、原材料には限りがあるため、資源保護とのバランスを考える必要がある。(60 字)

問 2

これまで人類は、地球の資源を使用して製品を生産し、使い捨てる消費社会によって経済を成長させてきた。しかし、これを続けることにより地球の資源は枯渇し、環境破壊が進み、結果的に経済も崩壊することになる。故に、持続可能な社会を築くためには、経済活動と環境保護を調和させることが必要となる。その取組みの一例として、循環型経済の推進が考えられる。製品の設計段階からリサイクル素材や環境に優しい素材の利用を考える、使用後にはリユース・リサイクルするシステムを作る、ゴミを燃料として利用するなどが挙げられる。個人レベルでは、環境に配慮した取組みを行う企業の製品を購入することや、企業に投資することができる。資源の保護やゴミの削減という点からは、マイバッグ、マイボトル、マイ箸の使用も環境に優しい行動といえる。このように世界の人が自分の立場から環境保護を考えた行動をしていくことが、持続可能な社会につながると考える。(400 字)